

コンテナ苗の普及と定着に向けて育苗技術研修会に参加

【森林整備課】

11月28日、「当年生カラマツコンテナ苗生産技術研修会」が長野県山林種苗協同組合、長野県、長野県林業総合センター及び当森林管理局の参加により長野市内の種苗生産者の苗畑で開催されました。

コンテナ苗の生産には通常複数年を要しますが、生産技術等の進展により、育苗期間が一年以内のコンテナ苗(以下「当年生苗」という)の生産も行われていることから、今年度から長野県山林種苗協同組合でもその生産に取り組んでいます。

研修会では、苗木生産者から春及び秋播種により、約一年間で出荷規格にまで育苗する方法等について説明を受けた後、実際の試験育苗の状況を確認しながら検討を行いました。水分や施肥の管理、植え替えのタイミング、冬期管理等について活発な意見交換が行われました。



カラマツコンテナ苗の畑で説明を受ける参加者

当年生苗は、苗木生産性の向上、残苗リスクの減少等においてメリットがあるとともに生産者の経営安定に役立つので、本年度から当局管内の国有林で当年生苗の植栽を行い、その後の成長等のデータ収集・分析を行い、苗木の安定供給に役立つ当年度苗の導入について検証等を行っています。

当局では、管内におけるコンテナ苗の使用割合を平成26年度の38%から四年で倍増させており、今後とも関係機関と連携し、生産者に対する講習会や研究機関への協力を通じて、育苗技術や生産性の向上と安定供給に向けた取組を進めていきたいと考えています。